

第12回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2000年2月29日（火）10：30～10：55

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁

原子力局

中澤審議官

原子力調査室 伊藤室長、板倉、池亀、会沢

国際協力・保障措置課 中野課長

核燃料課 上田、芝野

核燃料サイクル開発機構

国際・核物質管理部 水城次長、花井研究主幹

吉舗専門委員

4. 議 題

- (1) 第2回JNC原子力平和利用国際フォーラムの開催結果について
- (2) 日本原燃（株）の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況について
- (3) その他

5. 配布資料

資料1 第2回JNC原子力平和利用国際フォーラム－新たな概念の創出に向けて－開催結果について

資料2 日本原燃（株）の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況について

資料3 第10回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- (1) 第2回JNC原子力平和利用国際フォーラムの開催結果について

標記の件について、国際協力保障措置課及び核燃料サイクル開発機構より資料1に基づき説明があった。これに対し、

今後国際フォーラムを開催する際の改善すべき点は何か。

（核燃料サイクル開発機構）詳細については、今後検討する予定であるが、一例として、今年から核燃料サイクル開発機構（JNC）の考えを発表する時間を多くとったこともあり、もう少し全般的に時間をかけて海外の意見を聞けるようにすべきとの意見があっ

た。

JNCの主張を明確にすべきとコメントしてきたところであり、今の点は、今後の改善点というよりむしろよくなった点だと思う。

(核燃料サイクル開発機構)全体的にはよかったという評価がなされているが、あくまでアンケートの回答にそのような意見があったので紹介した。今後のフォーラムにどう反映するかについては、今後JNC内部で検討していくことになる。

JNCの特徴を出し議題を絞り込んだことと、以前は招へいした外国人の話が主体であったが、昨年からは日本人が中心になってきたのは良い点だと思う。

出席者が非常に多く、また、フォーラムの最後まで聴いて頂いたのも良かったと思う。露国の解体核の問題で、ヨーロッパ、米国の代表がかなり具体的な話を展開してくれたので参考になった。

大学院生によるシンポジウムは良い着想であったが、時間不足の感があった。

外国人の招へい者を見ると、アジアからの招へい者はゼロである。アジアの中で中国、韓国は原子力を積極的に進めている国でもあるので、今後改善されるべき点だと思う。アジアの重要性は、いろいろなところで言われており、改善すべき最重要項目の一つだと思う。

アジアからの招へいはなぜできないのか。インドも今回のテーマについては、かなり意見をもっていると思う。もっとオープンに語れる場を作る必要がある。

インドについては、「21世紀の原子力平和利用と核問題」という国際シンポジウムにおいて核不拡散のテーマで呼ぶことになっている。ただし、NPTに加盟していないので、必ずしも全てに対しオープンになっていないところもある。少なくとも中国、韓国などには、もう少し門戸を開く努力をすべき。

日本の主張ははっきりしていたと思うが、パネル討論会の場で何を話すかについて、もう少し明確であれば良かった。

現在、長期計画を作り上げている中で、主体性のある国際協力を全面的に打ち出そうとしているので、主張が明確になるということは、これからの国際社会の中で重要である。敦賀と東京でそれぞれ別に国際会議を開催しているが、今後、このすみ分けをどうしていくのか。敦賀はもんじゅに焦点をあてたテーマで開催しているが、今回のようにJNCを主体とし、国際的視点で日本として何を打ち出すのか考えた上で、別々にやるのか、合わせてやるのか整理して欲しい。

今回、アジアから招へいしなかった理由はあるのか。(核燃料サイクル開発機構)意図的にアジアを招へいの対象から除外したのではなく、テーマに関連し技術的な面での活動を行っているかという観点で検討し、今回の招へい者を決定した。アジアからの招へいについては、次回以降の検討事項とさせて頂きたい。

全体としては、フォーラムの内容がよくなってきていることを評価したい。さらに実り多いものにして欲しい。また、来年のテーマは決まっているのか。

(核燃料サイクル開発機構)まずは、今回の成果についての整理を中心に行っている。
等の質疑応答及び委員の意見があった。

(2) 日本原燃(株)の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況について

標記の件について、原子力調査室より資料2に基づき説明があった。これに対し、
現時点で、何か問題はあるのか。

(事務局)工事進捗については問題ないが、先週、現地への持ち込み機器について設計図
面と食い違いがあり、2種類の機器について今後追加工事を行うとのことである。日本
原燃(株)から品質保証についても徹底を図るべく努力すると聞いている。

等の質疑応答及び委員の意見があった。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料3第10回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、今回は3月3日(金)に臨時会議を10:30より開催する方向で調
整したい旨、発言があった。